

平成25年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

目指す学校像	本県教育の目標・校訓をふまえ、地域社会の要望に応えながら、人間性豊かな個性の伸長を図り、教養ならびに専門的知識を高め、広い視野と適切な判断力、たくましい実践力を備えた、心身ともに健全な、国家社会の有為な人材を育成する。			
	昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
	<p>平成24年度末に各部・各項目別に成果と課題について検討を加えた。</p> <p>・学力の向上では、分かる授業を推進し、「チャイム ツウ チャイム」を心掛け、授業内容の充実を図ることにより、意欲的に学習に取り組む生徒が増加している。また、各種検定試験の合格者数の増加など成果を挙げることができた。また、授業時間の確保には授業の振替が徹底してきたため自習の時間が大幅に減った。</p> <p>・次年度への課題としては、本校の目指す生徒像をふまえた教育課程の編成、学習意欲の低い生徒への指導方法の探求、公開授業の計画・立案等が挙げられる。また、月曜日の授業時間の確保のため曜日の振替等を行いたい。</p>	<p>学力の向上</p>	・分かる授業を推進し、学力の向上を図る。	B
・授業時間の確保と授業内容の充実を目指す。（教室内でチャイムを聞く）			B	
・課題の提出や予習復習を徹底させて、家庭学習の習慣付けを行う。			C	
・授業観察等を通して、指導法を工夫改善し、指導力を高める。			C	
・学習意欲の低い者への組織的・計画的な指導を行う。			C	
	<p>・心の教育に関しては、生徒全員にボランティア活動の機会を与え、地域に貢献する心を育むことができた。</p> <p>・次年度の課題としてはボランティア体験を活かし、地域のボランティアに自主的に参加するよう支援することである。</p> <p>・広報活動については、平成22年度からホームページの刷新を図ってきており、県内高校のホームページ更新頻度の上位を維持している。また、「KCレンジャー」をイメージキャラクターとして学校説明会や中学生の体験入学等の際にPRに役立っている。また、商品開発を行った過程を研究発表した県主催の生徒商業研究発表大会において最優秀賞を受賞し、関東大会・全国大会へと出場した実績等を広報活動の材料とした。</p> <p>・次年度は、これらを大いに活用して、学校説明会や中学生の体験入学に取り組んでいきたい。</p>	<p>安定的な定員の確保に向けて、商業教育の活性化と広報活動に努める。</p>	・資格取得のための課外授業の実施に努める。	B
・広報紙・ホームページ等で商業教育の広報活動を積極的に推進する。			B	
・地域と連携した商業教育の推進を行う。			C	
・効果的な体験入学を実施する。			B	
・メディアの情報に敏感に対応し、情報の共有化を図る。			C	
	<p>・進路指導については、各学年とも実施した行事が学年の生徒の実態と本校の進路状況を踏まえた啓発的・体験的な内容であったことと、進路に関する情報を適切に得させる内容で大変良かった。進路決定率は全体で98.4%（昨年は90.7%）で、就職だけでは98.9%（同85.5%）である。（H25.2.7現在。）</p> <p>・次年度の課題としては、進路実現100%（進路保障）を目指すために日々の学習活動の工夫と、個に応じた就職、進学指導の工夫である。インターンシップについては、今年度10箇所の実習先に於いて生徒が体験したが、次年度は、キャリア教育の必修化等の動きもあり時期や方法等を検討する必要がある。</p>	<p>進路指導の充実</p>	・進路に関する適切な資料や情報の提供、案内、説明、相談などのガイダンス機能の充実に努める。	B
・自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てるキャリア教育を発達段階に応じて適切に実施する。			B	
・進路実現100%を目指し、進学課外や教職員及び外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。			B	
・ホームルーム活動における進路学習や進路相談の内容を吟味し、段階的、系統的な展開に努める。			B	
・教職員や保護者による求人確保及び開拓を推進する。			B	
	<p>・生徒指導については、遅刻カードは遅刻防止の一定の歯止めになっていると思われる。生徒指導の関連行事（特に交通関連）は好評だった。</p> <p>・次年度の課題としては、服装・遅刻等の指導で職員間のさらなる共通理解を図り取り組んでいきたい。また、組織的に取り組む生徒指導について生徒指導対応マニュアルを作成する。</p> <p>・特別活動について、クラスマッチや文化祭においては、生徒会役員とHR役員の協力体制のもとに、一定の成果を上げることができた。</p> <p>・次年度の課題としては、さらに生徒を自主的に活動させ、生徒の活動を活性化させるための体制作りに取り組んでいきたい。</p>	<p>生徒指導の充実</p>	・基本的生活習慣の確立に努める。	B
・整容指導の徹底を図る。			B	
・問題行動や事故の未然防止に努める。			B	
・特別指導の充実改善を図る。			B	
・就業体験（インターンシップ）をとおして職業意識の啓発を図るとともに、進路選択を具体的に意識させる。			B	
	<p>・図書関係では、蔵書点検や整備を行い利用しやすい環境を整えた。職員や生徒の希望図書調査を行い新刊本等の購入ができた。</p> <p>・次年度への課題としては、図書館の利用者数と貸し出し冊数を増やす取り組みを考えていきたい。</p>	<p>特別教育活動の活性化</p>	・生徒会及びHR活動の活性化に努める。	B
・部活動の活性化に努める。			B	
・体育祭等の学校行事の充実に努め、生徒の主体的参加を促す。			A	
・ボランティア活動を推進して、奉仕する喜びを知る。			B	
・保健厚生では保健室の運営については、来室生徒の状態を把握し、処置等十分対応することができた。内科・歯科の検診は全生徒が効率的に実施できた。また、性教育講話も予定通り実施することができた。危機管理マニュアルの見直しを行い防災に備える体制ができた。 <p>・次年度の課題としては、昼食販売の見直し、冬季のエアコン使用について協議が必要である。</p>			<p>安心・安全な学校づくりの推進</p>	・心身ともに健康な生徒を育成する。
・自主的に安全を守る能力を養う。	B			
・学校の環境衛生について適切な維持管理に努める。	B			
・自らの考えを口頭や文書で的確に表現する力を養う。	B			
・挨拶の励行	B			
	<p>コミュニケーション能力の育成及びビジネスマナーの修得に務める</p>	<p>・他人の言葉や意見に素直に耳を傾け、相手の気持ちを推察する能力を養う。</p>	・ビジネスマナーの徹底	B

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題	
教科	国語	授業に意欲的に取り組む態度を育てる。	ノートや課題集等を学期毎に（年間3回）点検することを通して、授業に集中して取り組む態度を育てる。	A	<p>○授業に取り組む態度・課題の提出等は、年間計画通り実施し、概ね良好であった。</p> <p>○理解度の低い生徒へのフォローは、休業中実施したものの、時間に追われ不十分であった。</p> <p>○俳句・短歌は、例年通り応募し、複数入選を果たした。</p> <p>○長期休業中の課題は、期日に遅れる者がいたが、全員提出できた。</p> <p>【次年度への課題】 ○普段の授業の予習、復習等励行し、家庭学習、自学学習の習慣を生徒に身につけさせたい。そのための工夫をしていきたい。</p>
			定期試験対策の時間を設け、理解度の低い学生をフォローし、学習意欲を引き出す。	C	
		場に応じた適切な表現力を身に付ける。	俳句・短歌等への積極的な応募を通し、複数入選を目指す。また、自らの感性を磨き、相手に伝える表現力を育てる。	B	
		家庭学習の習慣化を図り、自発的な学習態度を育成する。	長期休業中（夏、冬）に課題集等を必修の宿題とし、定期的な家庭学習の習慣を身に付けさせる。	B	
	社会	授業に意欲的・集中的に取り組む姿勢を促す。	授業アンケート等を実施し、生徒の興味・関心をふまえた授業展開を心がける。	B	<p>○各方策とも概ね目標達成できたが、対話や発問を促す授業展開については、不十分な部分があった。</p> <p>○生徒の実態を踏まえ、目標を達成しうる授業展開を次年度も追求していきたい。</p>
			視聴覚教材や新聞等の資料を効果的に活用する。	B	
			生徒が授業に参加するよう対話型の授業展開を心がける。毎授業ごとに、クラスの半分の生徒が発表できるよう発問や展開を工夫する。	C	
		教科の基礎学力の定着をはかる。	授業内容の確認プリントやノートの点検等きめ細かな指導を行い、理解度の低い生徒に対するフォローを実施する。ノートの点検は、年3回以上行う。	B	
	数学	教科書の内容の定着を図り、発展的な事象も取り扱う。	より多くの事例を通し、体験的に理解できるように問題集の活用・プリント等での演習を実施する。	B	<p>○座学だけに限らず、実験なども取り入れた授業を行った。</p> <p>○学力差が大きく、授業の進捗について来れない生徒の指導が課題となった。</p> <p>○クラス平均は50点台となった。</p>
			課題や学習ノート提出により、理解不足の生徒への対応を迅速に行う。	B	
			各定期考査で、発展的な事象も取り入れクラス平均60点以上を目指す。	B	
	理科	基礎的な学習の向上を図る。	情報ビジネス科において、希望に応じて課外を実施する。	C	<p>○昨年度よりも選択者が増加した。</p> <p>○実験器具の洗浄等徹底できた。</p>
		科学に対する意識・関心を高め、科学的思考力を身につける。	身近な物質や現象、最新の科学情報等を話題として提供し、科学に対して関心を持たせる。	B	
		選択科目の充実を努める。	昨年度化学選択者40名・生物134名であった。昨年度よりも選択希望者を増加させる。	A	
	体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体力テストA及びBの割合を50.0%にする。	C	<p>○体力テストA及びBの割合が、目標値よりかなり低い値であった。記録に対する意欲がかけている生徒が見受けられたので改善していきたい。</p> <p>○卒業課題への取り組みは良好であった。</p> <p>○クラスマッチ・体育祭は生徒がよく活動していた。</p> <p>○保健の授業では、食の問題や環境問題などニュースで取り上げられている話題が多かったので、身近に感じられたと思われる。</p>
		できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率95%を目指す。	B	
		体育的・学校行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	クラスマッチ・体育祭等の学校行事に向けた意識付けにおいて、集団における協調性を身につけさせる。	A	
		よりよい体育授業の実践を図る。	担当者全員による学期一回以上の実技研修会を実施する。	B	
	保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	生徒の実体験などをもとに、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。	B	
	英語	基礎学力の向上に努める。	各学年、年3回スピーキング・コンテストを実施し、語彙力強化を目指す。	C	<p>○スピーキング・コンテストを実施し、語彙力強化に努めたが2回しか実施できなかった。成績不振者に対しては、対策課外を実施し、補講等も行った。</p> <p>○全商英検については、夏期講習・放課後講習など早くより対策課外を実施したり、課題を課すことにより、例年以上の合格を出すことができた。例年3級合格率は約60パーセントであるが、今年度は78パーセントと上昇した。また、1級合格者も3名出すことができた。</p> <p>○ベース校として週二回ALTを活用し、コミュニケーション能力の育成に努めた。</p> <p>【次年度の課題】 ○英語検定試験で2級1級の合格率をさらにアップさせること、新教育課程に対応した英語科教員の指導法・評価法を確立し、さらに生徒たちのコミュニケーション能力の育成に努めることである。</p>
			上級学校への進学を念頭に、進学課外を実施する。	B	
			成績不振者に対して、課外を実施し、学力の向上を図る。	B	
資格取得のための指導に努める。		全商英検3級合格60%を目標に、上位の級の合格者も出るように合格対策課外を実施する。	A		
		STEP英検受験を勧め、きめ細かな指導を行い、合格率を70%以上にする。	B		
		実践的コミュニケーション能力の向上に努める。	LL教室や音声機材を効果的に活用し、コミュニケーションに必要なリスニング能力を強化する。	B	
	ALTを積極的に活用し、簡単な意思の疎通が図れるようにする。	B			
家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。	実験・実習を多く取り入れ、具体的でわかりやすい授業を展開する。	B	<p>○身近な題材を実験・実習に取り入れ、生活の向上を図るための基礎を身につけさせることができた。</p> <p>○小テスト及び実技テストは単元により未実施の分野もあったが、授業プリントの点検はこまめに実施することができた。</p> <p>○ホームプロジェクトは、提出期限に遅れる生徒がおり、実施後のフォローが不十分であった。</p> <p>○食物検定は計画的な対策課外の実施により、3級に6名が合格した。</p> <p>○次年度もより身近な題材を実験・実習に取り入れていきたい。</p>	
		小テスト・実技テスト・プリント点検等を通して、基礎的な知識と技術を定着させる。	B		
	作品を完成させることにより、達成感を持たせる。	作品完成までのプロセスを重視し、生徒の実態に応じた個別指導の充実をはかる。	B		
	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、生活の質を向上させる。	C		
	資格取得への意欲を高める。	食物検定を実施し、受検者全員が3級に合格できるよう、課外を実施する。	A		
商業	学力向上を図る。	学力向上のため、各科目の目標としている級の取得を目指す。検定試験全体で、60%以上の合格を目指す。	B	<p>○学力向上のために検定試験の合格者を60%以上と設定したが超えることができなかった。</p> <p>○検定毎に課外を実施したが、実施方法等を検討したい。</p> <p>○商業教育の推進のため、体験入学と出前授業を実施した。</p> <p>○総合実践等でマナーに関する指導を取り入れた。</p>	
		資格取得への意識付けを高めるために、検定ごとの課外を実施する。	A		
	商業教育の広報活動に努める。	地域と連携した商業教育の推進を図る。効果的な体験入学等を実施する。	B		
	ビジネスにおける実践力の育成を図る。	商業科目の中で、ビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身に付ける工夫をし、育成する。	B		

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題	
教務	学力の向上に努める。	わかる授業の展開と学習意欲の喚起をする。	B	<p>○各教科とも教材等の工夫をし、わかる授業の展開を心掛けていた。成績上位者(評定4.0以上)の生徒が増加している。</p> <p>○授業公開日の設定が上手くできなかった。</p> <p>○月曜日の授業が少くなることへの対応として火曜日との振替を行ったが、不十分であった。また、自習時間は週2時間以内であり、振替等の徹底が図れた。</p> <p>○生徒に何を学ばせるかを考慮し、教育課程編成を行った。</p> <p>○成績に関する内規の改正ができなかった。</p> <p>○現在、転退学者は昨年度より減少している。</p> <p>【次年度の課題】</p> <p>○わかる授業への更なる工夫と指導力向上を目指し、授業公開等の機会を増やす。</p> <p>○生徒の実情に合う教育課程の編成を行う。</p> <p>○内規の完成を目指す。</p>	
		指導力向上のために授業公開日を週1回設ける。	D		
	授業時間の確保に努める。	学校行事による、曜日・時間のかたよりを少なくし、曜日の振替も行う。	B		
		年休・出張の際の授業を原則振り替えとし、週時間当たりの自習時間を2時間以内とする。	B		
		チャイム to チャイムの徹底を図る。	B		
	教育課程の編成に努める。	本校の目指す学校像や生徒のための教育課程を編成する。	B		
	内規の改正をする。	本校の現状をふまえ、内規の見直しを行う。	D		
	学業不振による転退学者の減少を目指す。	成績不振の生徒のために補習や課外を計画的に行う。	C		
	心の教育担当：奉仕の精神や社会貢献への関心を高め、社会連帯の精神を育てる。	結城特別支援学校との交流事業や地域イベント等におけるボランティア活動を推進し、社会に奉仕する心を育む。	B		
	ボランティア活動を全員に体験させ、豊かな心・地域に貢献する心を育む。	各ボランティア活動の事前・事後指導を確実にを行い、道徳の授業との連携を図る。	B		
校務分掌	生徒指導	生徒全員に朝の挨拶をさせる	登校指導において、挨拶がかえってくるまで呼びかけていく。	B	<p>○8時35分で昇降口と教室の両方でチェックする方法にしたことにより、遅刻者が減少した。</p> <p>○問題行動の未然防止のための取り組みについて、講話、集会、学校生活アンケートのみでは難しいと感じた。次年度はLHRを活用して、様々な問題行動について考えさせる機会をつくりたい。</p> <p>○服装違反や遅刻について、チェックしても回数ごとの指導を実施できていないクラスもあり、生徒は違反を繰り返してしまう。まずは、この点を全職員が共通認識で取り組めるようにしたい。</p>
		服装・頭髪等について校則を守らせる	登校指導、授業、休み時間等において、違反を見逃さず、全職員で呼びかけていく。服装チェックカードを活用し、段階的指導を行い、校則違反をなくすよう努める。	B	
		遅刻者数を大幅に減らす	8時35分過ぎに昇降口と教室でダブルチェックをして遅刻の取り扱いを統一する。遅刻カードを活用して段階的な指導を行い、遅刻の防止に努める。	A	
		交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ	校外指導を実施したり、普段からHR等で注意を呼びかけてもらう。また、自転車点検・交通安全講話、バイク実技講習会・四輪車安全運転教室等を実施する。	B	
		問題行動を未然に防ぐ	全職員による立哨指導および校内巡回で昼休みの生徒の動向を把握したり、服装検査や様々な集会等で、起こりうる問題行動等について注意を促す。	B	
		教育相談活動の充実	教師の指導に加えて、スクールカウンセラーによる生徒へのカウンセリング、保護者への指導・助言等により、教育相談体制の一層の充実化を図る。	B	
		特別活動	「特別教育活動の活性化」		
①生徒会及びHR活動の活性化に努める。	生徒会役員会の定例化・生徒会通信の発行		B		
②部活動の活性化に努める。	各部活動の目標を設定させ、意欲的な取り組みを促す。また、部活動の生徒を中心に学校周辺の美化活動等に取り組む。		B		
③体育祭等の学校行事の充実に努め、生徒の主体的参加を促す。	特活部会・生徒会等の話し合いを密にし、学校行事の実施に向けて準備・取り組み体制を作る。		B		
進路指導	進路保障と生徒個人に対する進路指導の展開	生徒の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てるキャリア教育を発達段階に応じて適切に実施する。	B	<p>○各学年とも実施した行事が生徒の実態と本校の進路状況を踏まえた啓発的・体系的な内容であったことと、進路に関する情報を適切に得させる内容で大変良かった。</p> <p>○進路決定率は全体で96.8%、就職だけで96.5%である。(H26.1.29現在)</p> <p>【次年度への課題】</p> <p>○進路実現100%を目指した日々の学習活動の工夫と生徒個人のコミュニケーションスキルとビジネススキルのさらなる向上が必要とされる。</p> <p>○インターンシップについては、今年度26か所の実習先に於いて就職希望者の83名が体験することができ生徒にとって貴重な経験となった。次年度以降もこの形で進めたい。</p>	
		就職内定率100%を目指し、進学課外や教職員及び外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。(昨年度実績99%)	B		
		ホームルーム活動における進路学習や進路相談の内容を吟味し、段階的、系統的な展開に努める。	B		
		教職員による求人確保及び開拓を推進する。	B		
		就業体験(インターンシップ)をとおして職業意識の啓発を図るとともに、進路選択を具体的に意識させる。	B		
環境整備	自ら率先して清掃を行う態度を養う。	教室のワックスがけ、モップ交換を定期的に年間4回行う。	A	<p>○年間計画通り、教室のワックス塗り、モップ交換が出来た。毎日の清掃活動も生徒自ら行うような習慣が身についてきた。</p> <p>○学期ごとの目標はやや不徹底であった。学校周辺の空き缶、空き瓶の清掃は、部活動、環境整備の生徒の協力で効率良く短時間で実施できた。</p> <p>【次年度への課題】</p> <p>○特別棟WCの改修工事により、清掃の方法を変更する必要がある。生徒一人一人が、環境・清掃等、身近な問題として意識していけるように指導していきたい。</p>	
		清掃監督を毎日きちんと行う。	B		
		学期毎の目標を設定して、環境衛生面での意識の向上を図る。	C		
		学校周辺の空き缶・空き瓶・ごみ等の清掃を年2回行う。	B		
		ゴミの分別をきちんとさせる。	B		

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題		
校務分掌	保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	保健室の効果的な運営に努める。	B	<p>○保健室の運営は来室生徒の状態を把握し、処置等十分な対応ができた。</p> <p>○内科・歯科検診も予定どおり、効果的に実施でき、生徒の健康状況を把握できた。</p> <p>○性教育講座も予定どおり実施でき、所定の効果を上げることができた。</p> <p>○昨年度実施できなかったAED講習会を企画し、実施できた。</p> <p>○火災だけでなく地震を想定した避難訓練を行ったり、危機管理マニュアルの見直しを行い、学校安全・防災に備える体制ができた。</p>	
			諸検診の効果的な実施に努める。	B		
			専門家による性教育を実施する。	B		
		学校生活の安全教育に努める。	防火・防災避難訓練やAED講習会を実施するとともに、危機管理マニュアルの見直しを行う。	B		
		学習環境を整備する。	エアコン、ストーブの安全管理および生徒の健康管理に努める。	B		
		水質検査および室内環境検査等を実施する。	B			
	図書	情報センターとしての図書室環境を整備する。	わかりやすい蔵書の配置・整備に務め図書室を利用しやすい環境を整備する。	B		<p>○県の集まりに参加し、よい経験ができた。</p> <p>○図書当番の徹底を図りたい。</p> <p>○読書の魅力を伝える工夫が大切である。</p>
			原則として長期休業中を除き開館し、生徒の図書室利用に対応する。	B		
		読書指導と読書の推進を図る。	1年生全員クラスごとに図書室利用のオリエンテーションを実施する。	A		
			新刊本をカラーコピーし、生徒昇降口に掲示する。	A		
職員に対し年度始めに購入希望図書の調査を行うとともに、随時職員・生徒の購入希望を受け付ける。			A			
	生徒・職員の希望図書を購入し、年5回発行する「図書館だより」で新着図書案内を行う。	B				
渉外	各種行事、会合への保護者の参加率を高め、家庭との連携を密にする。	PTA総会や授業参観への出席率が40%以上になるよう工夫をする。	B	<p>○PTA総会では昨年同様、3年生の親子で参加する進路ガイダンス等により、出席率は4年連続40%を超え44%だった。</p> <p>○PTA研修視察旅行では東北の被災地を訪問し1日も早い復興を祈念してきた。各支部研修会も盛大に開催でき、参加者も増えた。</p> <p>○スクールバスの新たなコース・新消費税導入による料金等も継続して検討していく。</p> <p>○50号バイパスの本校に降りる交差点「鬼怒川西」を「鬼怒商前」に変更できるかどうかPTA、同窓会で検討していく。</p>		
		学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA広報紙の充実をはかる。	B			
	臨時停車駅『鬼怒商前』設置調査研究委員会において、PTA・同窓会で協力して研究を進める。	会員相互の親睦をはかるため、保護者対象の研修旅行等を実施する。	B			
		PTA支部研修会への出席率が向上するよう声かけをする。	B			
	スクールバスの円滑な運行をはかる。また、新たなコース導入を検討する。	スクールバス運行委員会において、常に問題点を改善していく。	B			
情報管理	教育活動の公表に努める。	教務、各部等と協力し、ホームページの内容を週5回以上更新し、情報を発信する。	B	<p>○HPの更新は、毎日ということは出来なかったが、それに準ずる頻度で行えた。</p> <p>○情報機器の更新をし、2014年度のXPに関するセキュリティの問題に完全に対応できた。</p> <p>○機器の更新にあたり、システムが一部正常に動作しないなどの事例があり、次年度への課題としたい。</p>		
	情報の保護・管理に努める。	公務上知り得た学校や生徒の情報の保護に努めるよう、情報機器の備品を100%にする。	A			
	情報の効率的な活用について、検討する。	情報の共有化についての各校務部との調整に努める。	B			
学年	一学年	基本的な生活習慣の確立に努める。	家庭と学校の連携を密にし、欠席をなくし、学生らしい身だしなみを心がけさせる。	B	<p>○検定試験や学校行事、ボランティア活動等に於いて欠席者は殆どいなかった。高校生としての自覚と責任を促すことができた。</p> <p>○基礎学力の点で指導が必要な生徒が多く見られたが、そのような中であって検定試験の合格率高く、教員の粘り強い指導の結果を出すことができた。</p> <p>○国語や英語の授業でスピーチを取り入れ、今後はコミュニケーション能力から更にプレゼンテーション能力の育成に繋がる指導を心がけたい。</p> <p>○心の教育で一部の教員に負担がかからないようなシステムの構築が必要である。</p>	
		情操教育の推進に努める。	心の教育で計画された行事を通して、心豊かな生徒を育てる。	B		
		進路意識の高揚に努める。	進路指導部と連携をとり、ガイダンス、面談、進路LHR等を通して進路に対する意識を高めさせる。	A		
		コミュニケーション能力の育成に努める。	挨拶の励行や国語の授業でスピーチを取り入れ、考えを伝え合う力を身に付けさせる。	A		
		基礎学力の向上と授業の質の向上に努める。	分かる授業の推進とチャイムtoチャイムを習慣化させる。	B		
	二学年	進路意識の高揚とコミュニケーション能力の育成に努める。	コミュニケーション能力育成のための面接指導を外部講師を交え年間5回以上実施する。	C		
		授業の質の向上に努める。	授業環境を整える（チャイムからチャイム、携帯電話の提出、授業中の私語をゼロ）。	C		
		情報ビジネス科の特徴を活かした指導を実現させるとともに、学年全体の指導向上に努める。	情報ビジネス科については、各種検定試験1級合格率平均80%を実現する。商業科についても、50%を実現。	C		
		部活動での主体的活動を担う。	部活動加入率40%を維持する。	C		
		モラルを重んじ、規則を守るよう啓発していく。	早期発見・早期解決を心がけ、学年集会等を設け未然防止に努める。特別指導を年間一ケタにする。	B		
	三学年	社会人を意識したコミュニケーション能力の向上をはかる	生徒との会話を密にする中で指導していく。	A		
		挨拶や正しい言葉遣いを身につけさせる	教員からも積極的に生徒に挨拶をし、会話の中で言葉遣いを指導していく。	B		
		進路未決定者ゼロを実現させる	将来の自分を本気で考えさせることで、フリーターを出さない。	C		
		情報ビジネス科から難易度の高い推薦合格者（大学）を出す	全商英検1級等の難易度の高い資格の合格者を出す。	B		
		全員卒業を実現させる	進路変更者を出さない。	C		

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分